

場所 北海道千歳市

面積 2.56ha

活動目的 樹林で確認された6種の希少種を保全し、樹林を活用することを目的としている。



サイト概要

北海道千歳市西部の千歳臨空工業地帯に位置する、北海道キッコーマン株式会社の工場緑地である。

ミズナラをベースに、サワシバ、アズキナシ、ミズキなどの少し湿った環境を好む樹木と、シラカンバが混ざる二次林である。

当サイトの周囲は工業団地であり、緑地は少ない。さらに工業団地周囲に残された自然も、トドマツやアカエゾマツなどの植林であるため、申請区域は希少な緑地である。当サイトの落葉広葉樹林は約80年前から残存しており、様々な生物が利用している。

土地利用の 変遷

1940年代 薪炭林として周辺が利用されていた。
1979年 千歳臨空工業団地北側の造成がはじまる。
1987年 キッコーマン株式会社千歳工場（現：北海道キッコーマン株式会社）竣工。
工場の西側にはコの字型に樹林が残存している。
1990年～2000年代 工場内の植林地が成長。

サイト周辺の 環境

周囲は工業団地であり、申請区域は希少な緑である。
北側には千歳川が流れ、東に直線距離20kmほどで支笏湖がある。
道央道（千歳ICや新千歳空港IC）が近く、ICから車で5分ほどでアクセス可能である。
新千歳空港へは、車で20分ほどでアクセスが良好である。

アピール ポイント

植物1種、昆虫類1種、貝類3種、鳥類1種の希少種が確認されている二次林である。（2024年9月とりまとめ時点）
工場見学に訪れた人が周囲の自然も含め楽しめるサイトである。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

当サイトは1940年ごろまで、薪炭林として周辺が利用されており、1940年代から残存する林齢80年以上の壮齢林が残っている。周辺はトドマツやアカエゾマツなどの植林が多いが、当サイトは植生自然度7で、ミズナラにシラカンバが混ざる植生である。

【主な植生】

環境省の2万5000分の1植生図では、シラカンバーミズナラ群落の凡例が適用されている。ミズナラをベースに、サワシバ、アズキナシ、ミズキなどの少し湿った環境を好む樹木と、シラカンバが混ざる二次林である。また、林縁にはアカエゾマツやトドマツが植林されている。

【確認された主な動植物など】

区域では、2023～2024年の現地調査において、植物約140種、昆虫類約80種、貝類11種、鳥類49種、哺乳類3種が確認されている。確認した種の中には、環境省レッドリスト2020や北海道レッドデータブック等に掲載されている希少種も含まれている。

（2024年9月とりまとめ時点）

【主な確認種】

（植物）ミズナラ、キタコブシ、ホオノキ、ミヤマエンレイソウ、ササバギンラン、サワシバ、アズキナシ、ミヤマザクラ、オオヤマザクラ、シウリザクラ、ツタウルシ、ヤマウルシ、エゾイタヤ、シナノキ、オオバボダイジュ、オカトラノオ、フデリンドウなど

（昆虫）ノシメトンボ、コエゾゼミ、カエデハムシ、ハンノキハムシ、クロヤマアリ、エゾオオマルハナバチ、ルリシジミ、ミドリヒョウモン、キアゲハ、トンボエダシャクなど

（貝類）ミジンナタネガイ、パツラマイマイ、ヤマボタルガイ、マダラコウラナメクジ、コハクモドキ、コハクガイ、エゾマイマイ、ウスカワマイマイ

（鳥類）アカゲラ、ヤマガラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、ムクドリ、キビタキ、ニュウナイスズメなど

（哺乳類）エゾリス、キタキツネ、エゾシカ



写真の説明：ミヤマエンレイソウ



写真の説明：アカゲラ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

当サイトは、調整サービスとして、防雪林としての役割を果たしている。また、樹林地は1940年代から残存する林齢80年以上の壮齢林が残っている。

【主な植生】

（価値3の再掲）環境省の現存植生図では、シラカンバーミズナラ群落の凡例が適用されている。ミズナラをベースに、サワシバ、アズキナシ、ミズキなどの少し湿った環境を好む樹木と、シラカンバが混ざる二次林である。また、林縁にはアカエゾマツやトドマツが植林されている。

【確認された主な動植物など】

（価値3の再掲）区域では、2023～2024年の現地調査において、植物約140種、昆虫類約80種、貝類11種、鳥類49種、哺乳類3種が確認されている。確認した種の中には、環境省レッドリスト2020や北海道レッドデータブック等に掲載されている希少種も含まれている。（2024年9月とりまとめ時点）

【主な確認種】

（植物）ミズナラ、キタコブシ、ホオノキ、ミヤマエンレイソウ、ササバギンラン、サワシバ、アズキナシ、ミヤマザクラ、オオヤマザクラ、シウリザクラ、ツタウルシ、ヤマウルシ、エゾイタヤ、シナノキ、オオバボダイジュ、オカトラノオ、フデリンドウなど

（昆虫）ノシメトンボ、コエゾゼミ、カエデハムシ、ハンノキハムシ、クロヤマアリ、エゾオオマルハナバチ、ルリシジミ、ミドリヒョウモン、キアゲハ、トンボエダシャクなど

（貝類）ミジンナタネガイ、パツラマイマイ、ヤマボタルガイ、マダラコウラナメクジ、コハクモドキ、コハクガイ、エゾマイマイ、ウスカワマイマイなど

（鳥類）アカゲラ、ヤマガラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、ムクドリ、キビタキ、ニュウナイスズメなど

（哺乳類）エゾリス、キタキツネ、エゾシカ



写真の説明：スジクワガタ



写真の説明：エゾマイマイ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

希少種として確認された貝類は、樹の上で生活する樹上性の種類である。千歳市の隣の苫小牧市では、自然性の高い連続林に生息し、市街地にある孤立林には全く生息しないことが分かっている。今回敷地内の樹林で確認された個体は、昔からの生き残りであると考えられ、その期間樹林が維持され続けたことを示している。

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020や北海道レッドデータブック等に掲載されている希少種として、植物1種、昆虫類1種、貝類3種、鳥類1種の合計6種が確認されている。（2024年9月とりまとめ時点）



写真の説明：樹林の様子

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>以下の5つの活動を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 希少な草本植物の保全 希少な草本植物は樹林と草地の間に出現している。適度な草刈を行うことで生育が維持されるため、生育箇所をマーキングし、草刈などで消滅しないよう、保全する。 フランスギクの除去 草地にフランスギクが侵入しているため、定期的な草刈りを行って、根絶を目指す。駆除成果は生育状況のモニタリングを行って把握する。減少傾向が見られない場合は、駆除活動の内容を改善する。 シカ食害対策の実施 2024年度に設置されたシカによる食害防止柵内外における植物生育状況調査を行う。柵の効果があつた場合は、柵設置個所の増設を検討し、下層植生の回復を行う。 樹洞性鳥類の保全 繁殖利用中の樹洞を確認し、繁殖利用中の樹洞木の近くでは、草刈などの人の活動を近傍で行う際に留意する。また、経年的な樹洞性動物の繁殖種数・つがい数・産卵数・巣内雛数・巣立ち雛数を確認し、環境変化が要因となる減少傾向が認められた場合は、環境改善を行う。 工場見学者に対する環境教育の実施 現地調査結果を活用し、以下を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 工場見学コースに生きもの紹介コーナーを作る。 工場内の樹林の様子をSNSなどで紹介する。 <p>また、緑地管理計画に則り、以下の管理を実施している</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月ごろに、送電線に影響のある枝に関しては剪定を実施している。 草地の草刈を年3回 6月下旬、8月下旬、10月下旬に実施している。 	<p>【モニタリング対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> 希少な草本植物、2. フランスギク、3. シカ食害植物、4. 樹洞性鳥類 <p>備考：これ以外にも、3～5年に1回程度で各分類群の専門家同伴の上、生物調査を実施予定。</p> <p>【モニタリング場所】 サイト内樹林地</p> <p>【モニタリング手法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 & 2. 生育箇所をマーキングし、生育状況(株数、群落規模など)を経年的に把握する。 3. シカ柵設置位置内外の植物生育状況(株数、群落規模など)を経年的に把握する。 4. 樹洞性鳥類の繁殖状況(つがい数・産卵数・ヒナ数など)を経年的に把握する。 <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 5月下旬ごろに1回実施(2年に1度)。 2. 6～7月ごろに1回実施(2年に1度)。 3. 5, 7, 9月にそれぞれ1回実施(2年に1度)。 4. 5～8月にそれぞれ1回実施(2年に1度)。 5. 適宜実施 <p>【モニタリング実施体制】</p> <p>活動実施：北海道キッコーマン株式会社、キッコーマン株式会社 モニタリング：株式会社地域環境計画</p>